



大分市の大友館跡にある「南蛮BVNGO交流館」が、戦国時代の交易で大分に持ち込まれた陶器「華南三彩鶴形水注」を展示しています。

①「華南三彩」とはどんな陶器ですか？

### 大分市、BVNGO交流館の「華南三彩鶴形水注」



南蛮BVNGO交流館で展示している華南三彩鶴形水注（大分市顕徳町）

# 鮮やかな陶器 南蛮貿易象徴

②大友氏遺跡からは何点の華南三彩が出土していますか？また大分県のほかにはどこから出土していますか。



華南三彩鶴形水注のレプリカ

### 出土、3県のみ

【大分】大分市顕徳町の大友氏館跡にある「南蛮BVNGO交流館」が、戦国時代の交易で大分に持ち込まれた陶器「華南三彩鶴形水注」を展示している。大友氏遺跡の発掘調査で2012年度に出土し、19年度に復元作業が完了した。国内では沖縄、宮崎を含めた3県以外で同じ鶴形の形は見つかっておらず、海外と当時の大分との活発な交流を示す貴重な品という。

市教委文化財課によると、華南三彩は緑色の上葉をベースにした色彩豊かな陶器。つぼや文房具など用途はさまざま、中国の明の時代（14～17世紀）に福建省周辺で生産されていたらしい。日本には南蛮貿易などを通じて輸入され、祭具や室内の飾り、茶の湯の道具として使われた。

大友氏遺跡からは発掘調査が本格化した1996、2012年度に計237点の華南三彩が出土。その後の調査でも見つかっている。量は南蛮貿易の中継地

今回展示している鶴形の水注は華南三彩の中でも希少で、初めて復元した。表面にはハスの花や葉、水生植物のオモタカなどを描いており、水辺を表現しているという。形状から、16世紀後半の大友宗麟・義統の治世に作られたとみられる。具体的な用途は不明。

「華南三彩は大友氏の南蛮貿易の隆盛を象徴する出土品。豊かな文様や色彩を楽しんでほしい」と同課。鶴形水注は9月中旬まで公開する。レプリカも飾っている。（是永桂一）

交流館は午前9時、午後5時に開館。入場無料。休館日は毎月第1月曜は開館し、翌日休館する。

③南蛮BVNGO交流館に展示している鶴形水注はどんな陶器ですか？

④展示している陶器にはどのような歴史的価値がありますか？